

パブリック・コメント実施結果

- 1 意見募集期間 令和5年12月22日（金）～令和6年1月22日（月）
- 2 資料の公表 (1) 配架
 大阪市健康局健康推進部健康づくり課（大阪市役所2階）
 市民情報プラザ（大阪市役所1階）
 各区役所区民情報コーナー（出張所含む）
 各区役所保健業務主管課
 大阪市サービスカウンター（梅田・難波・天王寺）
 各市立図書館
 大阪市保健所管理課
 (2) インターネット
 大阪市健康局ホームページ
- 3 意見提出方法 ファクシミリ、持参、送付、電子メール
- 4 意見提出先 大阪市健康局健康推進部健康づくり課
- 5 応募意見の概要
- (1) 応募総数 4件
- | | |
|--------|----|
| ファクシミリ | 2件 |
| 送付 | 1件 |
| 電子メール | 1件 |
- (2) 属性
- 【住所】 大阪市内：2名 大阪市外：1名 不明：1名
- 【年齢】 40歳代：1名 70歳以上：2名 不明：1名
- (3) 意見の内容

総数	4
若い世代の食育に関すること	1
計画全体に関すること	1
基本テーマに関すること	1
学校給食に関すること	1

パブリックコメントに寄せられたご意見と本市の考え方

意見の要旨	意見の原文	本市の考え方	担当	修正
<p>1</p> <p>若い時期の食習慣の見直しは次世代の健康につながることをもっとアピールすることを期待する。</p> <p>例えば、母子手帳発行時等の機会を利用して妊娠中の栄養状態の大切さを伝えてはどうか。</p>	<p>・成人期の生活習慣病などの健康問題の源が、胎生期の環境にあるといわれています（OHOHD説）。生殖年齢の男女の食習慣の見直しは、次世代の健康につながることを、もっとアピールして下さることを期待します。</p> <p>・例えば、母子手帳お渡しなどの機会を利用して、妊娠中の母体栄養状態が、胎児の栄養・発達にいかにかに大切かを分かり易く伝えては如何ですか？</p>	<p>早くからよりよい食習慣を身につけることは生涯にわたり健康で過ごすために重要であり、引き続き、若い世代に対して、各種イベントやSNSを通じた啓発を行ってまいります。</p> <p>また、ライフステージに応じた食育として、胎児期においては、引き続き、妊婦教室等を通じて妊娠中の栄養、食生活に関する啓発を行ってまいります。</p> <p>なお、ご意見を踏まえ、あらためて明記するため、次のとおり修正（下線部）します。</p> <p>【計画P15「胎児期・乳幼児期」の項</p> <p>＜修正前＞</p> <p>「特に乳児期においては、子どもの健康維持、成長・発達を促し、保護者の不安を解消できるよう、各区保健福祉センターでの「離乳食講習会」等により支援を行います。また、…」</p> <p>＜修正後＞</p> <p>「また、子どもの健康維持、成長・発達を促し、保護者の不安を解消できるよう、各区保健福祉センターでの「妊婦教室」や「離乳食講習会」等により支援を行います。さらに、…」</p>	健康局	有
<p>2</p> <p>第3次大阪市食育推進計画の目標達成率は31.58%で、計画自体が実体に即したものでないか、以下の点の考慮が欠けていたからだと思う。</p> <p>1. 単身生活者の増加</p> <p>2. レトルト食品やサプリメントの使用増加</p> <p>3. 一昨年来の食料品の軒並みの値上げ</p> <p>第4次計画作成に当たっては、実情に沿った計画にして欲しい。</p>	<p>これまでの大阪市食育推進計画は、目標達成が19項目中6項目と評価され（P2第3次大阪市食育推進計画の評価より）達成率31.58%と目を覆うばかりの数値となっています。これでは、計画自体が実体に即したものでないか、以下の点を考慮したものと云わざるを得ません。その原因は、以下の点を考慮したものとなっていないからだと思います。</p> <p>1. 単身生活者の増加：若者だけでなく、中高年及び高齢者の単身生活者が増加している事。これにより、夫婦で夫婦で生活している時には可能であった適正な食生活も単身生活の中では困難となる傾向になってきていると考えられます。</p> <p>2. レトルト食品やサプリメントの使用増加：自分で作らない食生活の増加やサプリメントの服用での体調の維持増加による食の単純化傾向。</p> <p>3. 一昨年来の食料品の軒並みの値上げ：収入の伸びない中での食料品の値上げによって、従来可能であった食生活が維持できなくなっている事。</p> <p>等々の要因の考慮が、欠けているように思われます。</p> <p>適正・妥当な前提の上での推進計画でなくては、目標数値と結果の数値が大きく異なるのも当然とも言えます。</p> <p>第4次計画作成に当たっては、実情に沿った計画を目指して頂きたいと思いい意見を申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	<p>日々の生活習慣、特に食生活については、ご指摘の要因を含め様々な生活環境や社会状況に影響されることから、適正な食生活の習慣化に向け、各種健康講座等の啓発の場において、引き続き、それらを考慮した食育の推進を行ってまいります。</p> <p>なお、ご意見を踏まえ、あらためて明記するため、次のとおり修正（下線部）します。</p> <p>【計画P13「すすめる」の項</p> <p>＜修正前＞</p> <p>「啓発活動においてはデジタル化に対応した食育を積極的に進めます。」</p> <p>＜修正後＞</p> <p>「啓発活動においては生活環境等を踏まえるとともに、デジタル化に対応した食育を積極的に進めます。」</p>	健康局	有

修正	担当	本市の考え方	意見の原文	意見の要旨
無	健康局	糖類については、国の「食事摂取基準」においても摂取量の基準が設定されていない現状もあり、基本テーマにはあげておりませんが、肥満予防等の観点から過剰摂取についての啓発を行ってまいります。	中学校給食、大阪の食堂は炊き込みご飯が多いから、かやくご飯でいいと思うけど 弁当 概要 減塩しようのところ、減糖(分)しようも	基本テーマに「減糖(分)しよう」も入れては。
無	教育委員会事務局	本市の学校給食は喫食数(約18万食)が多く、価格面や大量の食材の調達可否を考慮したうえで使用食材を決定しています。全市統一献立で提供しているため提供が困難な事情があります。本市としても地場産物や「大阪市なにわの伝統野菜」の利用の充実に努めたいと考えております。また有機農産物の利用についても同様に検討してまいります。	第3次計画で残った課題をこの第4次計画で解決できるよう力を尽くして欲しいです。私も一市民としてできるかぎり協力したいです。子どもに給食を通して、地場産物や「大阪市なにわの伝統野菜」を利用していくことを充実させて大阪の食文化を伝え、地元農家を支援して欲しいです。また、有機農産物の利用を増やして、子どもたちに安全でおいしい給食の充実に努めて欲しいです。	給食を通して、地場産物や「大阪市なにわの伝統野菜」の利用を充実させ、大阪の食文化を伝え、地元農家を支援して欲しい。 また、有機農産物の利用を増やして、子どもたちに安全でおいしい給食の充実に努めて欲しい。
無	経済戦略局	新鮮な農産物の供給をはじめとする大阪市の都市農業の魅力をプロモーション動画やイベント等で積極的に発信しております。農業者と飲食店のマッチングイベントを開催する等、農業者が農業経営を続けていけるよう支援をしております。		

その他の修正内容

頁	修正箇所	修正内容	修正理由
5	野菜摂取量の経年変化グラフ	下部に「※国民健康・栄養調査の情報を利用して大阪市独自に集計したものです」を追記	国民健康・栄養調査のデータ利用にあたり注記が必要なため
20	大阪市なにわの伝統野菜	「大阪黒菜」を追加	令和6年2月に新たに追加されたため
21	【青壮年期・高齢期】の項	「一般介護予防事業」を「介護予防事業」に修正	表記の統一
24	「5 数値目標」 項番11 「現状値のデータソース」欄	「医療圏」を「基本保健医療圏」に修正	正確な表記に修正